

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

製造者情報	会社	ホーザン株式会社
	住所	大阪市浪速区幸町1-2-12
	担当部門	マーケティンググループ
	お問い合わせ窓口	ホーザンテクニカルホットライン
	電話番号	06(6567)3132
製品番号	HS-380-1.5 / HS-380-2.0 / HS-380-2.5	
製品名	ハンダ吸取線	

2. 危険有害性の要約

GHS分類

特定標的臓器毒性(単回ばく露)(消化器系)	: 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)(気道刺激性)	: 区分3
未知の毒性成分から成る混合物のパーセンテージ	: 2%
水生環境に対する未知の危険有害性成分から成る混合物のパーセンテージ	: 2%

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル

:



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 臓器の障害(消化器系)
呼吸器への刺激のおそれ。

注意書き

安全対策

: 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
粉塵を吸入しないこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

応急措置

: ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師に連絡すること。
吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。

保管

: 施錠して保管すること。

廃棄

: 内容物及び容器を現地、地域、国及び国際的規則に従って廃棄すること。

他の危険有害性

: 認知済みのものはなし。

3. 組成及び成分情報

化学物質／混合物 : 混合物
組成及び成分情報 :

成分名	含有率 (%)	CAS No.	官報公示整理番号
銅	≥90	7440-50-8	—
ロジン	≤3.0	8050-09-7	(7)-935

本製品の補足的な成分の中には、現在の知識の範囲及び該当する濃度において、このセクションで報告が義務づけられている健康または環境に対して有害危険性であると分類される成分は含まれていません。

4. 応急措置

必要な応急処置の説明

- 眼に入った場合 : すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。
コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。
少なくとも10分間洗い流し続ける。
医師の診断を受ける。
必要に応じて医師に連絡する。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。
呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。
救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。
医師の診断を受ける。
必要に応じて医師に連絡する。
意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。
気道を開いた状態に維持する。
襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。
汚染された衣服及び靴を脱がせる。
少なくとも10分間洗い流し続ける。
医師の診断を受ける。
必要に応じて医師に連絡する。
衣類は、再着用の前に洗濯する。
靴は再使用前に十分に洗浄する。
- 飲み込んだ場合 : 水で口を洗浄する。
入れ歯をしている場合ははずす。
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。
嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったら、それ以上水を飲ませてはならない。

医師の指示がない限り、吐かせてはならない。
 もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。
 医師の診断を受ける。
 必要に応じて医師に連絡する。
 意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。
 意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。
 気道を開いた状態に維持する。
 襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

最も重要な急性及び遅発性の症状／影響

起こりうる急性毒性

眼に入った場合 : ハンダ付け フェーム 眼の炎症を引き起こすことがある。
 吸入した場合 : 呼吸器への刺激のおそれ。
 皮膚に付着した場合 : 皮膚に炎症を引き起こすことがある。
 飲み込んだ場合 : 医師の診断を受ける。

短期ばく露

潜在的な遅発性作用 : データなし

過剰ばく露の徴候／症状

眼に入った場合 : 有害症状には次の症状が含まれる : 刺激、発赤
 吸入した場合 : 有害症状には次の症状が含まれる : 気道の刺激、咳
 皮膚に付着した場合 : 有害症状には次の症状が含まれる : 刺激
 飲み込んだ場合 : 医師の診断を受ける。

必要に応じた速やかな医師の手当てと必要とされる特別な処置の指示

応急措置をする者の保護 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。
 煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。
 救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。

医師に対する特別な注意事項

: 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。
 特定の治療法 : 特定の治療法はない。

5. 火災時の措置

消火剤 : 火災に応じた消火剤を使用する。

不適切な消火剤 : 認知済みのものはなし。

火災時の措置に関する特有の危険有害性

: 本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。

有害な熱分解生成物 : 分解生成物には次の物質が含まれることがある : 金属酸化物

消防士用の特別な防具と予防措置

: 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。
 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。

消火を行う者の保護 : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

緊急時要員以外の人員用: 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。

周辺地域の人々を避難させる。

関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。

漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。

十分な換気を行う。

換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護用具を着用する。

適切な個人保護装置を着用する。

緊急時の責任者用 : 流出分の取扱いに専用衣類が必要な場合には、適切及び不適切な物質に関する「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の情報に注意しなければならない。

「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

環境に対する注意事項 : 漏出した物質や流去水の拡散、及び土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。
製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。

水質汚染物質である。

大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量流出 : 漏出区域から容器を移動する。
粉塵の発生を避けること。
乾燥状態で掃かないこと。
粉塵をHEPAフィルター付きの器具で吸い取り、ラベルが貼られた密栓付きの廃棄物用容器に入れること。
漏洩物は指定された、ラベルの貼られた廃棄物用容器に入れること。
許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

大量流出 : 漏出区域から容器を移動する。
放出現場には風上から近づくこと。
下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。
粉塵の発生を避けること。
乾燥状態で掃かないこと。
粉塵をHEPAフィルター付きの器具で吸い取り、ラベルが貼られた密栓付きの廃棄物用容器に入れること。
許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項

保護措置 : 適切な個人保護具を使用すること(「8. ばく露防止及び保護措置」を参照)。

眼、皮膚及び衣類に触れないようにする。

摂取してはならない。

環境への放出を避けること。

換気が十分な場所でのみ使用する。

換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。

使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。

容器が空でも製品の残留物が残存していて有害危険性がある。

容器を再利用してはならない。

一般的な職業衛生に関する助言

： 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食及び喫煙は厳禁。

作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。

飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。

「8. ばく露防止及び保護措置」の衛生措置に関する追加情報も参照。

安全に保管するための注意事項

： 現地の法規制に従って保管する。

元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質（「10. 安定性及び反応性」を参照）及び飲食物から離して保管する。

施錠して保管すること。

使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。

ラベルのない容器に保管してはならない。

環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

ばく露限界 : なし

適切な技術管理 : 換気が十分な場所でのみ使用する。

ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気またはミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質へのばく露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。

環境ばく露管理 : 換気装置及び作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。

場合によっては排出物を許容レベル以下に下げするために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。

個人の保護措置

衛生対策 : 化学製品の取扱い後は、食事、喫煙、及びトイレの使用前、さらに作業時間の最後に、両手、両腕の肘から手首までの部分、また顔を十分に洗う。

汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。

汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。

作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。

呼吸用保護具 : 危険性とばく露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、及び使用上のその他の側面を確実にすること。

- 手の保護具 : リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。
手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。
あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。
いくつかの物質から成る混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。
- 保護眼鏡／保護面 : リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃へのばく露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。
接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない：側方シールド付の保護眼鏡。
- 皮膚の保護
- 身体保護具 : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容及び関連するリスクに基づいて選択しなければならず、さらにこの製品を取扱う前に専門家の承認を受けなければならない。
- その他の皮膚保護具 : この製品を取扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物及び何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

外観

- 物理的状态 : 固体
- 色 : 茶色がかった赤
- 臭い : 無臭
- 臭いの閾値 : データなし
- pH : データなし
- 融点 : データなし
- 沸点 : 318℃
- 引火点 : データなし
- 燃焼点 : データなし
- 蒸発速度 : データなし
- 燃焼性(固体、気体) : データなし
- 爆発(燃焼)限界の上限及び下限 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 蒸気密度 : データなし
- 比重 : データなし
- 溶解度 : データなし
- 水への溶解度 : データなし
- n-オクタノール／水分配係数 : データなし
- 自然発火温度 : データなし

分解温度 : データなし
 粘度 : データなし
 流出時間(ISO2431) : データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。
 化学的安定性 : 製品は安定である。
 危険有害反応可能性 : 通常の貯蔵及び使用条件下では、有害な反応は起こらない。
 避けるべき条件 : 特にデータはない。
 混触危険物質 : 特にデータはない。
 危険有害な分解生成物 : 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

毒物学的作用に関する情報

急性毒性 :

成分の名称	結果	種類	投与量	ばく露時間
ロジン	LD50 経口	ラット	7600mg/kg	—

刺激性／腐食性 : データなし
 感作 : データなし
 変異原性 : データなし
 発がん性 : データなし
 生殖毒性 : データなし
 催奇形性 : データなし

特定標的臓器／全身毒性(単回ばく露)

成分の名称	カテゴリ	ばく露経路	標的器官
銅	区分1 区分3	未確定 該当せず	消化器系 気道刺激性

特定標的臓器／全身毒性(反復ばく露)

: データなし

呼吸に対する危険有害性: データなし

可能性のあるばく露経路についての情報

: データなし

起こりうる急性毒性

眼に入った場合 : ハンダ付け フェーム 眼の炎症を引き起こすことがある。
 吸入した場合 : 呼吸器への刺激のおそれ。
 皮膚に付着した場合 : 皮膚に炎症を引き起こすことがある。
 飲み込んだ場合 : 医師の診断を受ける。

物理的・化学的及び毒物学的な特性に関連する症状

眼に入った場合 : 有害症状には次の症状が含まれる : 刺激、発赤
 吸入した場合 : 有害症状には次の症状が含まれる : 気道の刺激、咳
 皮膚に付着した場合 : 有害症状には次の症状が含まれる : 刺激

飲み込んだ場合 : 医師の診断を受ける。

遅発性及び即時性の影響ならびに短期及び長期のばく露による慢性的な影響

短期ばく露

潜在的な即時性作用 : データなし

潜在的な遅発性作用 : データなし

長期ばく露

潜在的な即時性作用 : データなし

潜在的な遅発性作用 : データなし

健康への慢性効果の可能性

: データなし

毒性の数値化

急性毒性の推定 : データなし

12. 環境影響情報

毒性 :

成分の名称	結果	種類	ばく露時間
銅	急性 EC50 1100µg/L 真水	水生植物	4日
	急性 EC50 2.1µg/L 真水	ミジンコ類 幼若体	48時間
	急性 IC50 13µg/L 真水	藻類 指数増殖期	72時間
	急性 IC50 5.4mg/L 海水	水生植物 指数増殖期	72時間
	急性 LC50 0.072µg/L 海水	甲殻類 成体	48時間
	急性 LC50 7.56µg/L 海水	魚類 成体	96 時間
	慢性 NOEC 2.5µg/L 海水	藻類 指数増殖期	72時間
	慢性 NOEC 7mg/L 真水	水生植物	3日
	慢性 NOEC 0.02mg/L 真水	甲殻類 成体	21日
	慢性 NOEC 2µg/L 真水	ミジンコ類	21日
	慢性 NOEC 0.8µg/L 真水	魚類 幼若体	6週

残留性・分解性 : データなし

生体蓄積性 :

成分の名称	LogPow	BCF	可能性
ロジン	1.9から7.7	—	高

土壌中の移動性

土壌/水分係数(Koc) : データなし

移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : 該当せず

その他の悪影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。

この製品、製品の溶液及びあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護及び廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、及び現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。

焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。
この材料及びその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。
清掃または洗浄されていない空容器を取扱う際には注意しなければならない。
空の容器に製品が残留している可能性がある。
漏出した物質や流去水の拡散、及び土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 : 該当しない

航空規制情報 : 該当しない

国内規制

陸上規制情報 : 該当しない

海上規制情報 : 該当しない

航空規制情報 : 該当しない

使用者のための特別な予防措置 : 使用者の施設内での輸送 : 直立型の安定した容器に入れて輸送する。
本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

15. 適用法令

労働安全衛生法 第57条表示対象物質 : 該当しない

労働安全衛生法 第57条通知対象物質 : 政令番号 : 379(銅)、632(ロジン)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) : 該当しない

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 施行令 第2条 金属屑

製品中の含有量や使用・保管する総数などの諸条件、また法令の改正により、必ずしも適用されるものではありません。
詳しくは各法令をご確認ください。

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できる資料・データ等に基づいて作成しておりますが、製品の適応性・安全性を保証するものではありません。取扱いには十分注意してください。
このデータの使用による損失や損害について一切責任を負いません。ご使用者の責任において安全対策を実施の上、取扱い願います。
